

	本間会長 ご意見(9/19)	回答
1	最初の部分の国の65歳以上の人口の割合ですが、27.4%となっていました、敬老の日の番組では27.7%と書いていました。ご確認ください。	ご指摘のとおり、9月15日現在の総務省統計では27.7%と公表されています。 素案では、現在2017年1月1日現在の数値をお示ししておりますが、計画書においては実績値は2017年10月1日時点で更新する予定です。
2	2章の6期の取り組みのまとめですが、この表だけではほとんどの人は何がなんだかわからないのでは。何がどうよくなったかわからないと思います。	P.17の表については、「第6期町田市介護保険事業計画の評価結果」として、進捗の度合いを端的に報告するものであるため、概ね(97.7%)進捗が計画通りであることをお伝えすることが目的です。 具体的には、P.18以降の第6期各施策の冒頭において第6期中の取組の概要を説明しております。構成の意図が伝わるよう検討いたします。
3	P. 24は、具体的な内容がみえません。例えばDカフェも市内で何か所ありますか？できるだけ定量的な表現がいいでしょう。	市内で認知症カフェを運営している団体は、2017年6月時点で13か所あり、それぞれ1箇所ずつ、固定した場所で定期的にカフェを開催しております。 今後の拡大を目指していきます。
4	地域で支えあい、生き生きとした生活と表題にあります、市は具体的にどのような状態が達成できれば、地域で生き生きとした生活ができているというイメージですか？特に認知症の人の場合ですが。 自分にあった介護サービス云々というくだりも自分にあったというのは誰が判断した結果ですか？	○「地域の支え合いでいきいきと～」を掲げる基本目標1の実現については、達成のイメージを以下のように考えています。 ・基本施策1と、基本施策2の支え合い連絡会等の推進で、地域の課題を地域と行政が共有し連携して検討する仕組みが機能し、また、市内に見守り支援ネットワーク等の普及が進み、市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられていることが、「地域の支え合い」が確立しているイメージです。 ・基本施策2の推進で、介護予防の普及啓発と参加しやすい場づくりにより、市民の介護予防、自立支援への意識が向上し、取り組みが浸透すること、また、自らの介護予防のみならず、地域の支え手となる高齢者が活躍できていることが、「地域でいきいきとした暮らし」を実現できているイメージです。 ・そのほか、第7期計画では基本目標ごとにアウトカム指標を設定し、取り組みの進捗を図ることとしております。基本目標1に対する指標は、「初認定平均年齢」を提案します。要支援・要介護認定を初めて受けた時の平均年齢が、計画の推進により上がっていくことを目標とし、達成の指標とします。 ○認知症の人が生き生きと生活できている状態のイメージは以下のように考えています。 人や社会と繋がりがあり、いきがい・やりがいをもって生活できている状態を生き生きとした生活のイメージの一つと考えています。 ○「自分にあった～」という言葉はP.42の道標に記載してありますが、これは基本目標3の「サービスを適切に利用できている」と同義です。「適切さ」については、介護サービスの適正化、品質向上の取り組みで図っていきます。
5	P. 47で地域ケア会議も、前回審議会で指摘しましたが、かかりつけ医の出席状況はどうですか？ 変わらなければ会議の回数だけ増えても連携がよくなっているとはいえないのでは？	2016年度においては、18回の個別ケース検討地域ケア会議に医療関係者が出席しております。
6	見守り支援ですが、具体的には何をしていますのですか？	ご質問が『町内会、自治会等の地域団体が行う見守りに対し、市が行っている支援について、具体的に何を行っているのか？』という意であれば、主に下記の3点の取組を行っております。 ①町内会・自治会等の地域団体が、各団体の状態に応じた方法で、高齢者見守り支援ネットワークの体制を構築できるように、助言等の支援を行います。 ②高齢者支援センターが各地域で、地域の団体・住民を対象に、高齢者の見守り活動の普及・啓発を目的とした講座(高齢者見守り活動普及啓発講座)を開催しています。 ③高齢者支援センターが各地域で、既存の高齢者見守り支援ネットワーク同士の交流会や、既存の高齢者見守りネットワークと、これから高齢者見守り支援ネットワーク構築しようとしている団体との交流会を開催し、活動を継続するための課題抽出から解決へのきっかけ、活動の具体的な取り組みの共有を図ります。

7	<p>P. 50-54の予防ですが、基本的には手上げた人が対象ですね。手上げていないひとのほうがリスクは高いですが、その人たちに対する対応は？</p>	<p>12高齢者支援センターには、地域での介護予防の推進を目的とした「地域介護予防推進員」が配置されています。業務の1つとして、閉じこもり等介護予防が必要と思われる方を発見し、教室や地域の活動につなげることがあり、高齢者支援センターの他の職員、特に見守り相談員や生活支援コーディネーターと連携をしております。</p> <p>具体的には、見守り相談員の個別訪問で気になった方や民生委員などの地域の方から相談のあった高齢者に地域の教室や活動に参加できるようなアプローチを行っております。</p> <p>また、「町トレ」では、地域住民の方が気になる近隣の方をお誘いして、一緒にトレーニングに取り組み、健康づくりと見守りを兼ねた活動を行っています。</p>
8	<p>P. 61ですが、表題にあるようにQOLはよくなったのでしょうか？</p>	<p>施策5の「生活の質」については、これからの第7期計画において向上を目指していくものとして記載しています。</p> <p>また、「生活の質の向上」は、単純に施策5のみでなく、第7期計画全体の中で関連する取組の推進により、図っていくことを想定しています。成果についても、多角的な視点で図ることが必要と考えています。</p>
9	<p>サポート医が何人、かかりつけ医対応力向上研修を受けた医師が何人という数字もあったほうがいいのでは？</p>	<p>サポート医、かかりつけ医対応力向上研修を受けた医師の人数については、東京都の事業である為、介護保険事業計画に掲載しない予定です。</p>
10	<p>運転免許がなくなった人々に対する生活支援はどこかで記述されていますか？</p>	<p>計画書には、具体的な生活支援内容を記載する予定はありません。ただし、道交法の改正により運転免許がなくなる人が増える可能性と、このことよって生じる移動支援の必要性については、介護保険事業計画、高齢者福祉計画でそれぞれ記載をするべきと考えています。</p>